

## 守っていききたい 三原のお祭り

伝統的なお祭りを、守っていくこと。これは、地域の人たちや友達など、いっしょにふれ合うことだ。そのためには、そのお祭りの良さに気づくこと。私は、これが伝統的なお祭りを守っていくことだと考える。

夏休みに、本郷祭りへ行った。屋台を友達と見てまわった時に、屋台の数が減っているのに気がついた。それを見て私は、少しさみしくなった。

秋祭りのおみこしの時には、地域の人が家を回って人を集めていたのをよく覚えている。名前を記入する紙を見ると、近所の参加者は3、4人しかいなかった。私はそれを見て友達をさそい、集まったみんなでおみこしを引っ張った。その時、私はすごく楽しく感じた。伝統的な祭りに参加することで、みんなと楽しむことができるのだ。

しかし、現状では、参加する人たちが減っているのに、将来にわたってお祭りを残していけるのだろうか。そう思う人もいるだろう。確かに、少々、人が増えてもお祭りを残していくのは難しいかもしれない。しかし、私はこう思う。友達をさそいという小さいことから始め、ほんの少しづつでも参加人数を増やしていければ、いつかは多くの人が参加することになり、伝統的なお祭りを守っていくことができるのではないだろうか。小さな取り組みから始め、それを積み重ねていくことが大切なのだ。

今も、毎年参加する人が減っている。だから私は、自分たちが参加することでお祭りを守り、後世に伝えていかなければならないと思う。

伝統的なお祭りを守っていききたい。そのためには、私も積極的に参加することである。地域の人たちやみんなと楽しみ、良さに気づく。そして、その輪を広げる。このことが、伝統を残していくことにつながると思う。



# わがまちに望む夢

三原の未来を担う子ども達の声を紹介します  
— 連載第23回 —

## あいさつと歌声のある小泉に

私を通う小泉小学校では、「さわやかなあいさつができる学校」「美しい歌声の響く学校」を目標に、全校で取り組んでいます。今日はこの二つのことについて紹介します。

まず、さわやかなあいさつとは、「立ち止まって」「相手の目を見て」「にっこり笑って」あいさつをすることです。このようなあいさつをする時、自分も気持ちがいいし、あいさつをされた人もきつとうれしい気持ちになると思います。特に、地域の方や学校に来られるお客様には気持ちのいいあいさつをみんなまで心がけています。

次に、美しい歌声の響く学校について紹介します。

小泉小学校では、音楽朝会や音楽の時間に合唱に取り組んでいます。音楽朝会では校長先生も指導して下さり、高音と低音に分かれておたがいの歌声を聴き合い、響かせ合い、美しい合唱ができるよう取り組んでいます。

7月には、三原教育「希望と未来」フォーラム出場に向けた審査を受けました。全力を出し切ることができ、みんなの歌声が響き合う、いい全校合唱をひろうことができました。そして、私たち小泉小学校が、三原教育「希望と未来」フォーラムに出場できることになったのです。

フォーラム本番では、歌を聴きに来て下さるお客様に、「美しい歌声だな。」「また聴きたい。」と褒めていただけよう、気持ちをこめて歌おうと思っています。

あいさつと歌声は自分や相手の気持ちを明るくすることが出来ます。小泉小の全校児童140人の「さわやかなあいさつのできる学校」、そして、「美しい歌声の響く学校」をめざし、小泉の宝物を作るためにこれからもがんばっていかうと思っています。

